

時代に足跡を記(しる)した大先輩・その4

直木賞作家

千葉 治平 (ちば じへい・1921~1991)

昭和15年電気科卒

田沢湖の固有種、クニマス(国鱒)が1940年頃に絶滅したとされましたが、2010年山梨県西湖で棲息が確認されたことが話題になりました。

2011年クニマス発見記念「作家千葉治平と田沢湖物語」展が角館市の新潮社記念文学館で開催されました。

2015年11月から2016年4月にも、同名展が同所にて開催されました。



千葉治平(本名堀川治平)は秋田県仙北市田沢湖町出身。1940年(昭和15年3月)秋田工業学校電気科を卒業後、南満州鉄道化学研究所に入社。現地で招集され終戦を迎えました。

復員後、故郷の秋田に戻り、農業の傍ら1946年「月刊さきがけ」の懸賞小説に応募した「蕨根を掘る人々」が一席入選。選者であった伊藤永之介に師事し共に1947年「秋田文学」を創刊しました。

「秋田文学」23号~27号(1964年8月~1965年11月)に発表した小説「虜愁記」が、第54回(1966年)の直木賞で初候補になり、そのまま受賞しました。千葉治平44歳のことです。

この小説は、中国で敗戦を迎え捕虜として洞庭湖の湖畔湖南省岳州(現在の岳陽市)の村に送られた日本兵と中国人たちの、「民族同士の根強い不信任、憎悪と闘って人間的な信頼を回復」していく物語です。



直木賞作家という華々しい肩書を持ちながらも秋田に留まり東北電力に務めながら作家活動を続けました。1976年東北電力を定年2年前に退職、文筆活動に専念。

1978年「山の湖の物語 田沢湖・八幡平風土記」(秋田文化出版社)を発表。田沢湖を中心とした、湖の周辺の人々の伝説、物語、風物など、多くは少年時代の思い出で、タツコ姫の伝説とともに木の尻マスと呼ばれたクニマスを「田沢湖の精」として滅亡を惜しみました。存命中には、富士五湖や琵琶湖に移植された後の消息は聞けませんでした。が「もと漁師のなかには、田沢湖と条件の似通った富士五湖には、



「山の湖の物語」自筆カット

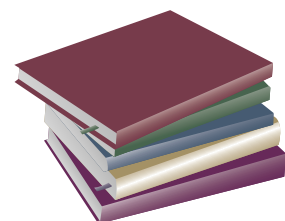
或いは生きていられるかもしれないという人がいる」とわずかな望みをもっておりました。

西湖での発見を知ったらどんなに喜んだでしょうか。この物語は、秋田文化出版社から1978年初版、1983年再版発行されました。

1982年胸部疾患のため療養生活に入りました。闘病生活は9年6ヶ月に及びましたが、1991年6月23日永眠しました。享年69。

1991年 盛岡タイムス社から出された、江戸時代南部藩の牛方(牛を使って荷物を運ぶ人々)として成長していく青年の物語「南部牛方ぶし」が絶筆となりました。

千葉治平が文壇に登場するきっかけとなった「月間さきがけ」の懸賞小説選者伊藤永之介は遑って1924年同郷の金子洋文を頼って上京しています。金子洋文は大正2年秋田工業学校機械科卒でKANASA22号の当コラムで掲載しました。また伊藤永之介は、名作映画とされる会津磐梯山麓の町を舞台とした森繁久弥主演の1955年日活映画「警察日記」の原作者です。



◆ 記事

赤川 均 (昭和41年電気科卒)
東京秋工会 副幹事長

K.F's Design History

右は1986年にデザインを手掛けた作品(製品)。リラクゼーションを目的とする椅子型の体感音響装置。音響(音楽)療法やリラクゼーションルームなどに活用され、また著名な医師たちにより設立された日本バイオミュージック学会で使用され、医療の分野において話題を集めた。同製品は現在は生産されていないが、体感音響技術関連の事業は現在も健在。思いもよらない分野でその効果を発揮している。

プロダクトプランナー&デザイナー 船木 一美
(昭和48年機械科卒)

P&D_KFworks
プランニング&デザイン ケーエフ・ワークス

埼玉県新座市野寺5-6-20 〒352-0034
携帯.090-3049-7291
E-mail kf-works@sea.plala.or.jp

Bodysonic Reflesh-1
Design at 1986